

日本性感染症学会は性感染症に関する諸問題の研究の促進、会員相互の交流および知識の普及と啓発を図ることを目的としてしている学会です。本学会では、「健やか親子 21」に関連して、下記の点について重点的に啓発活動を行っています。

思春期から生殖年齢にある女性の性感染症罹患率を明らかにして、不妊の予防、がん予防および、母子の感染予防による妊産婦と乳幼児の健康を守ります。また、わが国では国民全体の性感染症罹患率が少なくないこと、そして特に思春期を含む若年層での罹患率が高いことから、性感染症の予防法を啓発して、若者の健康を守ります。さらに、健やか親子 21 推進協議会のグループ研究・活動に参加し、情報発信等を行うことで、国民の健康を守ります。

2011 年以降、わが国では毎年 1.5～2 倍という速度で梅毒罹患者の増加がみられています。男性だけではなく若い女性の梅毒罹患者がふえています。妊婦が罹患していると胎児に感染し、先天梅毒により胎児・新生児の脳や心臓に異常が起こることがあります。また、HPV 感染も多くみられ、尖圭コンジローマの原因になります。妊婦の尖圭コンジローマの顕在化は新生児への垂直感染（呼吸器乳頭腫症）のリスクに繋がり、産道感染を予防するための選択的帝王切開が選択される場合もあります。さらに、HPV のタイプによっては子宮頸がんを引き起こしますので、性行為感染の予防はがん予防にもつながります。性器クラミジア感染は毎年新たに約 45 万人が感染していることが分かっていますが、多くが症状のないままに病気が進行し、中には不妊の原因となることもあります。性器ヘルペスの再発（疼痛、倦怠感等）に悩む患者も少なくありません。

このような状況に対し、本学会では、認定医（診断・治療を担当）制度、認定士（中高生などへの予防啓発を担当）制度を設けており、性感染症への正しい知識と対応を普及させるとともに、国民の皆さんからの相談にも対応できるようにしています。さらに、教育啓発委員会が作成した「（中高生向け）性感染症予防啓発スライド」および、厚生労働省 2016(平成 28)年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業、健やか親子 21 推進協議会(第 2 次)テーマ 4 の成果物である「Adolescence-わからないことがここにある。」を HP に掲載しています。

本学会では、性感染症は国民全体の問題であり、予防啓発・教育は国全体で取り組むべき課題であると認識し、国民の健康を守るために、今後も活動していきます。